

「令和 6 年度第 3 回阿見町人と自然が織りなす輝くまち創生有識者会議」議事概要

会議等の名称	「令和 6 年度 第 3 回阿見町人と自然が織りなす輝くまち創生有識者会議」
開催日時	令和 6 年 10 月 24 日(木) 午後 2 時 00 分～4 時 30 分
開催場所	阿見町君原公民館 多目的室
議題	(1) 阿見町人口ビジョン（抜粋） (2) コア施策に位置づけた根拠 (3) 第 3 期総合戦略の施策マトリックス (4) 第 3 期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）概要版 (5) 第 3 期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）
出席者	[委員](敬称略) 牧山 正男、島田 美栄子、塚本 浩行、吉田 美奈子、鈴木 伸、木村 美由紀、 山崎 友美子、田島 峰子 [町] 井上 町長公室長 政策企画課：糸賀課長、飯野補佐、野口主任、吉田主事
公開・非公開の別	公開 ＊傍聴者 0 人
議事結果	1. 開会 開会のあいさつ。あわせて、阿見町審議会等の会議の公開に関する規程により傍聴者を募集したが、申込みが無かった旨を報告。会議に先立ち、配布資料の確認を行う。 2. あいさつ 委員長より、あいさつ。 ＊ 有識者会議要綱第 6 条に基づき、牧山委員長に議長を依頼。 3. 議題 (1)阿見町人口ビジョン(抜粋)【資料 1】 委員長より、事務局へ議題の説明を求められたので、事務局より説明。 ～資料に基づき説明～ 14・15 ページを中心に説明があった。主にご覧いただくのは、14 ページのグラフになる。このグラフの根拠となるパターン 3-1、パターン 3-2 というのは、どのようなものなのか。高齢者から若い世代、子どもたちまでどのようなバランスになるかということに関しては、10 ページと 13 ページの人口ピラミッドをご覧いただきたい。 13 ページは、このパターン 3-2。人口が均衡するということは、このように変化がないグラフになってくる。これが、3 パターン。3-2 で出きる形、3-1 だと少し尻すぼみになるが、実線で書かれているのがパターン 1。一般的な推計値だが、これよりは特に若い世代から子どもの世代の人口が多くなってくると、こういう人口ピラミッドになる。 2070 年の人口ピラミッド、と言われてもイメージが湧かないところではある
委員長	

	が、世間では 2040 年問題や 2050 年問題が言われており、団塊ジュニアが 65 歳になるのが 2040 年、団塊ジュニアが後期高齢者になっていくのが 2050 年というふうに言われている。 その頃には日本の人口はかなり減少し、厳しい状況に入るときに、阿見町はこれぐらいの人口が保てるというビジョン。これに関して、ご意見・ご質問等あるか。特になければ、後の議論にも直接関わってくるので、パターン 3-1、パターン 3-2 を阿見町としては、この総合戦略人口ビジョンの中で目指していくという方針で進めるということになる。そうなってくると、鍵になるのがパターン 3-1、2 いずれも純移動数をいかに抑えていくか。特に、若い世代の人口流出というのは、前回の話題になっていますが、人口流出をいかに抑えるか。それから、出生率・出生数をいかに上げるか。出生率 2.0 を超えるほどに上げるわけではないので、ここには具体的な数字で書かれている。1.48 という数字ですが、これが不可能な基準ではないと私は思っている。出生数を上げるようなまちづくりをしていく方向で、これからのビジョンに関する基準について議論を進めさせていただきたい。 (2)コア施策に位置づけた根拠【資料 2】 (3)第 3 期総合戦略の施策マトリックス【資料 3】 委員長より、事務局へ議題の説明を求められたので、事務局より説明。 ～資料に基づき説明～
委員長	実際にどのような整理が行われ、その結果どのようにまとめていただいたのか。このような整理の資料をどのような手順で行ったということを開示している。 これまでは、優先順位や時間的な軸が十分に見える形で整理されていなかった。これは、国から示された資料に沿うとそうなるというようなことで、それを阿見町として工夫して作っていただいたのがこの資料。 中身に関する議論は資料 4 の中で行っていきたい。資料の見方や色、その辺に関して何かご意見・ご質問等はあるか。
委員	委員長がこだわった冒頭の言葉だが、すごく良いと思う。議論するときも「阿見らしい」という事をどう捉え、何を発信していくか。それから、魅力と言ったときに何をしていくのか、という事をすごく議論しやすいし、この資料を見るときに、見る方も、何を「阿見らしい」と捉え、どう発信していくのか、という観点で見れていると思う。
委員長	資料 4 について、私が細かい話を先にしないほうがいいかもしれませんが、資料 4-2 が「骨子案」になっているわけだが、資料 4-1 のダイジェスト版になっている。骨子案、概要版、それがこの資料 4-1 の 5 枚ものでまとまっている。 事務局と相談したところ、1 枚目がこの扉に当たるところですので、まずここについてはいったん議論いただいて、そのあと基本目標 2・3・4 に該当する部分。これをまとめて説明いただいて、あとで、まとめて議論をする。特に 2 と 3 を分けることはせず、足せるところは足し、足りないところは補っていく。そのような議論の進め方にさせていただければと思う。

	(4)第3期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）概要版【資料4－1】 (5)第3期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）【資料4－2】 ～資料に基づき説明～
委員長	KGIについて1点だけ補足させていただくと、少し見直しをお願いしているところ。例えば、「仕事」というところには農業が入ってこなければならないわけで、農業は事業所数では語れない部分がある。意味合いとして、数だけで議論すると、落としてしまう部分がある。KGIはもう少し練っていく必要があるだろうということを、事務局と相談してるところ。それ以外について、議論いただければと思う。 1番左の図形は、基本計画で作られ、使われてる図。「まち・ひと・しごと」の総合戦略の立場からすると、基本計画の中に「仕事」という表現がないことに関して引っかかるところがあるが、これは今から直せるものではないということなのか。
事務局	はい。
委員長	ですので、ここは切り離して考えていただきたい。基本目標3が「妊婦から子育て」という大事なタイミングを飛ばしている。本当は、町ぐるみで「妊婦・子育て家庭を支え、出産を応援し」とか、「出産応援」とか「出産を支援する」とか、そういう言葉があっていいような気もする。長いので他とのバランスを考えると、これ以上言葉を足せないかなとも思いますし、やむを得ないかなと思う。 もう1点申し上げると、町が既に立てている「総合計画」というのがありまして、それが、3つの四角で囲まれてる一番左。我々が今、議論しているのがこの真ん中のカラムで、真ん中の四角に当たるところ。1番目と2番目と縦横の形で重ね合わせると、この右側の四角の中の上の図ができ上がるということ。 「総合戦略」と「基本計画」は、このような構造にあるということをご理解いただいた上で、具体的な中身に入っていきたい。ここから先は、事務局からの説明後は、フリーディスカッションで、言いたい事を言い合う場にできればと思う。 ～資料に基づき説明～
委員長	これまで、皆さんからいただいた意見の概ねはここに盛り込んでいただいているものだと思う。しかし、いくつか入りきれてない部分や資料の中に反映されてない部分というのがある。骨子の中で、バランスよく理解してもらえるような記述にしていかなければならない。骨子にした内容が足りなければ、書き足していただくことにもなる。それが、この資料4-2や冊子の中に新たに加える場合もあるので、今日のところはこれまでにこれを言ったのに入っていない、というような意見もあれば言って欲しい。それから、今聞いてて思いついたとか、そういえばこれが無かったとか、この議論をし忘れていたとか、そういうことがありましたら、忌憚なく活発に議論いただければと思う。
委員	あみシティブランドの創出ということで、地域柄で言うと大学もありますし、小・中・高・大あるのは、他になかなかないと思う。その「あみシティブランド」

	の確立に、どうプロモーションするのか。今、こういう教育の施設ということで、高校生や大学生の意見もあったんですが、学ぶ場所が欲しい自習できる場所が欲しいとか。要望があれば、茨城大学の図書館とかを地域に開放する、というの也能るのかなと思う。具体的には、茨城大学と連携して自習室を開放するとか。
委 員	イオンのフードコートで勉強したりしている。阿見町には、フードコートはない。マックに集まっててクリーム来たとかよくあった。やはり、ただ開放するだけでは物足りない。
委 員	大学だったら学食とか、そういう何かがオプションでついてるような所の方が子どもたちは行きやすかったりすると思う。中央公民館も開放しているが、子どもたちは来ていない。本郷ふれあいセンターは割という。あそこは作りが良くて、フロアが開放的。
委 員	実穀ふれあいセンターも結構いる。
委 員	綺麗で、カフェみたいで、カジュアルな感じ。子どもたちはそういうことに敏感で、おしゃれなところや綺麗なところ、トイレが綺麗で開放的な所に行く。阿見町は、そう考えると、場所が限られている。
事 務 局	勉強スペースとして開放しているのは、図書館の２階がある。夏場だとエアコンを入れて勉強スペースとして開放しているが、なかなか行きづらい場所なので、今回の学習スペースが欲しいというご意見をいただいて、来年度、さわやかセンターの隣に子育て支援総合センターを建設する予定。 まさに、地方創生の拠点整備交付金チャレンジをしてるところ。その中に学習スペースをそれほど大きくは取れないですが設ける予定。ただ、高校生が大勢集まるという場所にはならないのですが、そういった工夫は少しずつやっているところ。 他にも、委員長がおっしゃったように、茨城大学と県立医療大学にも図書館があり、開放しているというお話を聞いたことがある。そういったところが十分に周知されていないと思うので、そういったことも周知・連携をしていく必要がある。
委 員 長	町だけで何とかなるような話でもないように思う。以前は、荒川沖駅に長崎屋があった。今は建物が無くなっている状態だが、ああいったところに共有スペースがあるとか、せっかく荒川本郷地区に子どもたち増えてるのだから、何か共有スペースのようなものができればと思う。
委 員	少し違和感がある文章なんです、3 ページ、3-2「本町の課題と展望」の最初のところが、「30 代・40 代の子育て世代等の流入はプラス状態にあるものの、20 代後半、特に女性の流出が課題です。」に少し違和感がある。20 代後半の女性は、おそらく結婚で引っ越しをされてる方が多いと思う。この文章だけを載せ、これが課題となると解決するためにはどうしたらいいのかを考えざるをえないと思う。しか

	し、これは女性だけの問題ではなく、結婚に伴う転出であれば、これは自然・当然なので、課題として認識するのはちょっと違和感あると感じた。
委 員 長	転出もするが、転入も増やしていく。つまり、どちらかと言うと「転出超過」であることが課題。転出しても、転入してくれば何の問題もない。ここは少し言葉を足して、転出超過なりその辺りを検討してほしい。
事 務 局	はい。
委 員 長	理想的なのは、ここから地域外に結婚で転出していく方々を、この地域の中に入れてもらえるようにすること。そのためには、働く仕事や子育て環境の充実が必要。表現次第で、そういう話につながられると思うので検討してほしい。
事 務 局	はい。
委 員	人口が増えた所には、荒川本郷地区がある。これからも人口が増えていくと思うが、その他の地域が問題。君原公民館周辺は、だいぶ過疎化が進んでる地域なので、それをどういうふうに食い止めるかというところ。 都市計画の話になるが、例えば「市街化調整区域」というのがあり、基本的にそこに建物を建ててはいけない。その中で「区域指定」といって、誰でも建物を建てられる地域があるが、その区域指定のエリアを増やしていく。例えば、阿見第二小学校の近くは、小学校に近い場所だが、市街化調整区域。本当に地元の方だけが入れるところ。そういう場所の市街化調整区域のところから少しずつ区域指定を増やしていった方が良いと思う。
委 員 長	都市計画的な話というのは、どちらかというの実施計画の話になってくるのか。
事 務 局	実施計画は総合計画の話になります。これからの進め方として、話があった区域指定を、総合計画の下で「都市計画マスタープラン」で議論していく。ここで頭出しをすることも、都市計画マスタープランへの議論の1つの道筋が立つのかなとは感じる。
委 員 長	3ページの冒頭がいきなり、「荒川本郷地区の開発等により」から始まり、右側のページ下の方を見ると、「荒川本郷」というワードがたくさん出てくる。荒川本郷に次ぐ、開発が可能な地域を生み出していく必要がある。そのためにも、「荒川本郷以外への拡大」というのを加えてもいいかもしれない。それが、どれぐらいのレベルで書き出すことができるのかは事務的な話になってくるので、この場では判断できないがご検討いただきたい。
事 務 局	はい。
委 員 長	荒川本郷一辺倒になりかけてることに関して1点危ないなと思っているのが、一気に都市開発が進むと一気に高齢化が進む。東京でも大阪でも見られる事象で、東

	京の高島平なんかが顕著なところ。1970 年ごろに一挙に団地が建って、人が大勢住んでいて、一時期は第 9 小学校まであった。今は 2 つか 3 つで、小学校が無くなっている。高齢化が進んで人口減少が進み、一気に高島平という地域は過疎化が進んでしまっているという状態。 荒川本郷が 40 年後にそうってしまったら一番怖い。だから、荒川本郷へは段階的に人を増やしていくということを丁寧に踏んでいく必要がある。荒川本郷は年数をかけて開発しているので、1 期の開発だけではないが、それも長い期間かと言えはすごく長い期間でもない。ある程度のタイミングで高齢化の波が来てしまう。その時に、他の地域がある程度元気な状態でないと、阿見町全体が一気にしぼんでしまうので、今後そこばかりを強調するのは少し怖いかなという気はする。 可能であれば、荒川本郷に代わる新たな居住地域の開発。もしくは開発可能な地域の設定というような文言をどこかに謳い込んでいただきたい。
委 員	3 ページの③「若い世代を中心とした定住促進」について、阿見町に来てくれた人たちがどれだけ快適に過ごせるかというのが、定住やこの先も住み続けたいと思ってもらえる一番大きなチャンスだと思う。そのため、町長と高校生会の話のまとめでもある通り、交通手段などが大事。あとは、学生たちが自炊してご飯を食べるのが大変なので米を炊くのが面倒でやらない、という話をよく聞く。子供食堂は月 1 回とかなので、もうちょっとコンスタントに気軽に食べに行けるような場所があると良いと思う。
委 員	食べに行ける場所があると良いという話だったが、今結構クローズしてしまう飲食店が多く、その大きな原因は後継者がいない、跡を取る人がいないから。県外から来てくださる人がいるぐらい人気だった店もクローズしましたし、長らく営業していた花屋さんもクローズしてしまった。 何か、てこ入れできることがあるならば実行していきたい。クローズする噂を聞いている飲食店がいくつかあるので、何とか救いたい。
委 員 長	今の話を一連でまとめると、1 つが、需要の把握。例えば、学生がどういうことを求めているのか。どういう地域であることを欲しているのか。大学生もしくは高校生が、もしかしたら阿見町に入って勤め始めたばかりの方々というようなことかもしれない。若い方々、子育て世代とか出産を控えたというようなことに関しては、情報収集するチャンスはあるはず。 ただ、高校生とか中学生とか若い世代の情報収集をするチャンスが、実は無いのではないかなと思う。そのため、この 3 ページ目に関しては、「あみシティブランドの創出」とあるが、作るだけでは駄目。作ったら、「発信」が必要。だから、まず「発信」という言葉をここには出し欲しい。
事 務 局	はい。
委 員 長	そして、創出と発信。発信のデジタルを活用することになるが、ただ「発信」という文言が明確にないとこれでは足りない。

創出の前にはマーケティングリサーチが必要で、情報収集をする機会というのは継続的に作る場合も必要。魅力を引き出せる中に入るのか、協力を得て中に入るのか、研究機関等との連携協力を得てなのか。そこに、「学生」という一言が入れば、必然的に情報収集を意味すると思うので、言葉の追加だけでその辺はいけると思う。

「子供食堂」という言葉があったが、全国に比べて阿見町は頑張っている側だと私はとらえている。しかし、もう少しアピールしても良いと思う。デジタルを活用した発信のコンテンツになってくると思うので、ここへ具体的に「子供食堂の発信」とか書かなくても良いと思う。

例えば、茨大と県立医療大は自転車で行けるぐらいの距離にある。月・水・金は県立医療大の食堂を朝8時から8時半開け、軽食を提供する。火・木は茨大農学部食堂を開けてとか、そんな感じでやっても良いと思う。そういうことは大学間で話し合うべきところだが、なぜこの話をしているかという、こういうことがもし動き始めると、朝に誰も働く人がいないから。両キャンパス合わせて学生は1000人もいない。つまり、1割が使ったとしても100人弱。100人が100円ずつお金を落としても、1日1万円にしかない。ただ、1万円分あれば人を雇えるのか検討できるので、そういう風にして雇用の機会を創出する工夫をしていかななくてはならない。これは大学間だけでやっている場合ではなく、商工会や場合によっては町の部署とも連携しながら、立ち上げていかなければならないこと。こういうのは、ほっといて動くものでもないし、そういうのをつなぐ役割をする機関が必要。横断的に動けるような機関をどこかに持っておくと強いと思う。地域活性化関係のNPOはこういうことができていいと思う。

後継者難で潰れている食堂があり、潰してはいけないようなお店があることを考えていくのであれば、地域の中でお金が動くような仕組みを作っていくことが必要になってくる。ただ、どう謳い込もうかということを考えているが、暮らしの部分か、仕事の部分か。私自身が中山間地の農村部によく入っているもので、その考え方としては、大きなお金を入れる必要はない。小さなお金が入ってくるような仕組み。無人直売所でもいいが、そういうところに少量のお金が入ってきて、そのお金が入ってきた農家さん側は収入が増えて喜んでいる、というだけではない。それをいかに地域の中で小さい額でもいいから回し始めるか。そういうお金の回し方ということが、地域づくりの中では必要な小さなお金の循環づくりという言い方をする。お金の循環づくりをする仕事の審議会、新しい仕事の創出、小さいものでいいので、そんな考えられないかなというふうに思う。

2ページ目の中にリスキリングの話があるが、リタイア組に対してスキルを身につけるだけではなく、生涯学習・生涯教育、生きがいづくりのための生涯勉強・生涯学習というのを、今どきの形ではカレント教育という言い方をする。これは何度か話をしてるつもりではいたが、5ページ目に健康増進がある。

健康増進を目にして、ここは医療大と茨大農学部を持っている。この町は医療大と農学部があり、「健康増進」というところにこの2大学が入っていない。だから、ここには是非入れてほしい。食に関する学部があるということを考えれば、健康増進の中にこの2大学が関わらない手はないはず。それから、先ほどの生涯学習やスキルを身につけるなどに関しては、大学が手を貸さないわけがない。その辺を

	ご検討いただきたい。
委 員	阿見町の特徴の1つが、自衛隊の基地があるところ。「まい・あみ・まつり」では自衛隊の車両に乗る体験ができる。車両に子どもたちが乗れると、だいが喜んでいたので、自衛隊とのコラボで何か発信できるようなPRができればと思う。
委 員 長	体験という言葉に関しては、2ページ目の仕事の中にはある。右側の2ページ目の②の2行目に、地元企業の紹介や仕事の内容を学び体験する機会とある。なので、地元企業という言い方の中に自衛隊は入らないですが、「自衛隊の体験」というのが仕事の中に入るのか、といえここに入る。自衛隊の戦車を間近に見たり、乗せてもらったりするのは、どちらかというと阿見町の魅力に関わる部分だと思う。それから、自衛隊の武器学校や予科練もそうですし、少なくとも予科練記念館は町の施設だから具体的に売り込んで良いと思う。 あみっぺの被ってるものは何ですか、という話。子どもが解説されないで分かるのか。何でこんな眼鏡がのった帽子を被っているのか。何で、スイカをここに付けているのか。茨大の学園祭にあみっぺが来た時、学生が何でスイカのポシエットをつけてるのか分からなかった。なので、あみっぺを題材とした勉強会があってもいいと思う。あみっぺが各小学校を回り、出前講座を開くとか、そんなのがあっても良い。以前は、給食に関する出前講座を茨大が協力する形でやっていた。例えば、給食でレンコンが出たら、レンコンはこうやって収穫するんだ、なんて話をしていた。そうすると、子どもたちは聞いたことがなかった、知らなかったなんて言いながら給食を食べるという教えの場・学びの場になっていた。阿見町の人みんなが知っているかと言ったら、そんなことはない。こういうことが、「発信」。そこまで具体的なコンテンツを上げる必要があるかどうか分からないが、コンテンツに関して考える部隊、戦略部隊、PR部隊のようなものを、場合によっては役場の中だけでなく町の方々から公募を募るような形もありだと思う。場合によっては学生たちが参加するような形で広報部隊を作り、その広報部隊を中心としたYouTubeチャンネルを作ったりしてもいいかなとは思う。
事 務 局	町では、今月から「地域おこし協力隊」の募集を開始した。観光協会の法人化を予定しており、その中で観光PRを担ってもらう人材確保を目的としている。地域おこし協力隊は観光PRだけでなく、将来的に自分の店を出したり、委員長からあった大学間の食堂の連携なども、担ってもらいたいと考えている。地域おこし協力隊の給料は、国からの特別交付税ということで全額貰える。なので、そうした仕組みを町としてこれから考えていけば、必要な事業に対して地域おこし協力隊を呼び、どんどん進めていただくことも可能ではないかと感じた。
委 員 長	地域おこし協力隊は可能性があるもの、として議論いただくことが必要があると思う。その上で例えば、魅力の中でもいいし、仕事の中でも、暮らしの中でもいいので、どこかに「地域おこし協力隊」という言葉を入れてもらいたい。
委 員	委員長から話があったことに関連してだが、資料4ページの「まちぐるみで妊婦・子育て家庭を支え、若者や女性が活躍できるまち」の「③子どもの可能性を開

	く教育環境づくり」で、ここの文言を読むとどの地域にも当てはまるものになっている。 もし、教育に力を入れようとするのであれば、もう少し独自性を出すひつようがある。教育という現場は、大元の教育課程というベースがあり、どこの地域でもやっているもの。なので、安心・安全もそうだし、教育内容もそうだし、言葉を選ばずに言えばどこでも同じこと。逆に言えば、どこでも同じでなくてはならない。だけど、突出していいものもある。「大学がある」、ということで大学との連携の話があったと思うが、聾学校もある。既に廃校になってしまっていて残念だが、実穀小と聾学校の関わりは全国的にも非常に有名で、あれだけの交流があったのにもったいない。本当にいい影響を与えていた。そういうことを考えたら、大学もある、特別支援に特化した学校もある、高校もある。多分、こんなに恵まれた施設を持った環境がある市町村は、どこにもないと思う。そこをアピールしない手はないし、教育現場が連携を取るとことで、仕事が増えるというふうを考えて、敬遠されてしまうのは嫌なので、その辺は教育委員会とかに工夫していただきたい。学校現場の負担にならないような方法で、うまく連携をアピールできるようなものを提示できたらと思う。
委員長	今、キラーフレーズが出た。気が付いたのが、この言葉ではどの地域にも当てはまってしまうということ。これは強烈な一言で、荒川本郷や、農業、工業があるというのが、この地域のいいところかもしれない。3 ページには、霞ヶ浦という表現もある。4 ページを見ると、この地域ならではのキーワードが一つもない。このページだけ、他に比べて極端に弱い。阿見町らしさがどこにもない。 なので、ここに「阿見町らしさ」をアピールしていくことを盛り込む必要がある。5 ページ目も多くはないが、「SDGs 未来都市」に阿見町は採択されたので、これはもっと売り出して良い。 3 ページ目に関しては「保育」という言葉をどこかに欲しい。子育てと仕事の両立は、就学前保育と学童保育のため、重要なキーワードとなっているため、入れなければならないと思う。これは制度でもあり、施設でもある。ですので、「施設の充実」ということが必要になってくる。さらに、3 番目に関しては、教育環境の中には安全・安心が入っている。災害と交通事故からの安全・安心は大事だが、闇バイトなどの犯罪が最近が多発している。犯罪に巻き込まれる可能性は、学生だけではなく全国民に及ぶ。犯罪に対する「安全」や「安心」という言葉を入れても良いと思う。また、災害に強いのは阿見町の良いところ。これは売りにするべき。
委員	君原小学校の児童数は 30 人ぐらいしかいない。別地域から入ってきても、6 学年まで子供たちの顔や名前も分かる、という教育の仕方をしている。 他とは違う教育の仕方をしているが、学校の周りの状況は、交通の便が悪く、子どもが少ないため、1 人で登校する児童が多い。荒川本郷の方ばかりでなく、こっちの地域にもバスを通して、魅力があるということを知ってもらいたい。 予科練平和記念館で先日マルシェに出店し、地域の野菜を販売した。広報あみに少し掲載されたが、もっと地域の方にアピールしても良いと思う。

委 員 長	マルシェのアピールについては、全国どこの町役場にも掲示板があると思うが、その掲示板に古いものと新しいものを一緒に貼られているので、目立たない。だから、宣伝が十分にできていないということは、その掲示板が機能しきれてない。そうなってくると、何で宣伝するかというと、阿見町は LINE を始めた。そこで、こういう地域のイベントをポンと投げかけるということは可能ですか。
事 務 局	マルシェも公式 LINE と阿見メールで流れてはいたと思うが、そもそもの登録者数が伸びてないというのがある。限られた方にしか、LINE のお知らせが届いていないというのが現状。SNS や観光協会からも情報を流しているが、フォロワー数が限られてるような感じ。
委 員 長	先ほど、「発信」を入れて欲しいと言ったが、今度は発信をしたら受信環境を整えなくてはいけない。人がよく集まるようなところに、阿見町の情報を流すモニターをあちこちに置くとか。試験的にどこかでできないのか。
委 員	コンビニでも、レジの上にある。それを、役場内に設置するとか。美浦村は、125 号線のところに大きい看板があって、イベント情報などが出ている。
委 員 長	先ほど、「発信」と追加で書くことをお願いしたが、発信の方法や場に関する議論も進む可能性もある。お金をかければ良いというものではないが、かけるべきお金というのもあるので、何かできたらなというふうに思う。それでいうと、地方によっては、タブレットを無償貸与してるうち地域がある。高齢者に対しても、タブレットの開き方と SNS へのアクセスの仕方だけは学ぶ。そういうふうにして、習慣をつけるうちだけで地域の情報が全部そこで手に入る。あみメールや SNS に登録していなくても、必ず皆が見ることができるような仕組みづくりをしてる地域があるという話を聞いたことがある。阿見だと人口が多いので簡単ではないが、高齢者に限らず人が多く集まるようなところで、何か工夫することができると面白い。
委 員	若い世代の流入や子育てというのが書かれているが、話をすると高齢の方がすごく不便を感じている。車の運転もできなくなってしまう、日々の食事や食料を買いに行くのに、どうやって行けばよいのか分からないと嘆いてる方が多い。オンデマンドのタクシーがあるのは知っているが、多分利用率はそこまで高くないと思う。若い世代も大事だが、阿見町に長く住んでいる方を大切にすることも必要。オンデマンドタクシーもいろいろサービス内容を拝見し、良いなと思ったのもっと利用率を上げていただきたい。
事 務 局	デマンドタクシーも台数を増やして対応はしているが、利用が偏っているのでタクシー業界との調整で、タクシー業界の仕事を奪わないように調整をおこなっている。高齢者の足がないというのは、どの地域からも声が出ている課題なので、カスミの移動販売車についてご意見を聞きながらルートを変更したり、回るルートを工夫したりして、地域で買い物ができるようにしている。

委 員	定住したい若い人がいるとの話が出たが、本当にそうだと思う。南平台はバスが減り、土浦まで行こうと思ったら島津まで歩いていくしかない。
委 員 長	交通の話は、随分この場でも議論になってはいるが、なかなか具体的に謳い込みづらい。これは、十分理解をされていて、何とか要望したいけれども、この委員会の手に負えない問題になっている。だからこそ、交通は置いといてでも、高齢の方々に何らかの手を差し伸べやすいようなことが何かできないかというときに、LINE登録者の増加とかになってくる。
委 員 長	一人ひとりに手を差し伸べるのには限界があり、高齢者全員に手を差し伸べるのは、現実的に不可能。ただ、助けてと手を出してきている高齢者の手を握ることはできるはず。だから、高齢者の方々が手を挙げやすい環境を作ってあげたい。その環境もなければ、高齢者はみんな諦めて手を挙げない。 それを、この文言の中にどう盛り込めばよいのか。現状ではその暮らしの中に地域化、地域交流とか、健康、土地環境というようなことが書かれてる。今からぎりぎり書き加えるとすると、「世代間交流」になるか。それだけで、随分とやれることが増える気がする。 高齢の方々に対する、なんてことを今更足すのは現実的じゃない。元気な高齢者の方々は、先ほどのリスキリングの話じゃないですけども、リタイア組がもう1回学び直そう、と自ら動いておられる方々はよい。自ら動きたいが、動くチャンスがない。もしくは、動きたいけど動くきっかけがない、体力がない。そういう方々の、「動きたい」という気持ちを何とか支えることができるような、仕組みができてくると良いと思う。 マルシェのアピールから話が広がってくるが、その前に君原の小学生が30人。地域の児童が30人しかいないという話もありましたが、こういう地域こそ交流というところに効いてくるんじゃないかなと思う。地域内での世代間交流や、地域外の子ども同士の交流とか、そういうのが必要になってくる。この教育環境づくりというところにも交流という言葉があってもよい。
委 員	ふれあい地区館で、おじいちゃん・おばあちゃんと触れ合いコミュニケーションを取る場はある。昔の遊具とか、そういうのを子供たちと一緒に作るとか。地域のおじいちゃん・おばあちゃんに先生になって、教えてもらいたいな。
委 員 長	放課後子供教室で申し上げたが、放課後子供教室の狙いは地域のおじいちゃん・おばあちゃんが昔こういう遊びをやっていた、ということ子供たちに教えるのが、狙いの中心部分にある。そういうことを発達させていくときに、こういう子供の少ない地域ほど手厚く、放課後子供教室を充実させていく動きはあってもよい。 具体的な話になってくるので、そこまで具体的な話をうたい込むのは、ここの仕事ではないかもしれないが、押さえておいていただいた上で、是非とも教育委員会に一声掛けていただくとか、何かしていただければと思う。
事 務 局	本日、欠席している委員から意見がきている。 以前の会議で話題に挙がっていた、「ペルソナ」の内容。基本目標ごとに設定し

	ている KGI に対し、ペルソナを設定してはどうかという意見。 例えば、1 つ目として、子育てしている女性。2 つ目として起業している女性。阿見町の創業スクールを卒業した人などがよい事例ではないか。3 つ目として、茨城大学に入学し農家に嫁いだ女性。4 つ目として、阿見町の企業で働いてる人などが挙げられるのではないか。
委員長	これを KGI にするという事だと、ペルソナ集を冊子化するとかになる。もしくは、ペルソナ集を動画にして YouTube にあげるとか、そういうのは KGI になるのではないか。色々な地域の移住促進施策を見ているが、決め手になるのはこの地域に移住した方々の先輩たちの声。実際に、どういった考えのもとにこの地域を選んで、その地域で何年過ごしていて、どういう経験をして、よかった点・困っている点は何か。この辺までを全て総合的に判断してこの地域に住むのか、それとも違う地域に住むのか。そもそも移住自体を止めるのか。そういう判断をすることを見てきている。その意味で、冊子ができ上がっているところが多い。ただ綺麗な冊子ができ上がっているところほど、移住者が多いわけではない、というのが面白いところ。なぜかと言うと、綺麗な冊子ということは、業者が入る。素人が手づくりで作ったものの方が、情緒に訴える場合がある。こういうとき、手づくり感はすごく重要。何か、可能性としてあり得るのかなと思う。KGI の記述に関しては、もう一度、事務局と相談させていただきたい。
事務局	先ほどの委員からもう 1 点、ご意見がある。フィルムコミッションを公募してはどうか、ということ。前回も話題には出ていた内容で、「あなたの好きな阿見町を映画のロケ地にしませんか」というようなコンセプトで公募し、町の PR に繋がればというご意見。
委員長	5 分以内の動画でコンテストを開くとか、そんなことをやってもいい。スマートフォンがあれば、動画が取れるので、頑張れば編集して 5 分ぐらいのショートムービーを作れる。毎年、今年のテーマはこれです、というふうな募集してコンテストを開いてもいいんじゃないかな、と思う。映画撮影をやっている町なんだから、そういう盛り上げ方もあり。うちの町が撮影場所になりました、と 10 年も前の映画の撮影記録をいまだにホームページ上にきっちり残している地域もある。三重県の津市がそう。津市は県庁所在地だから、大きいところかと思いきや山奥の町まで取り込んでいる。ここで、こういう映画を作りましたよ、なんていうので、ホームページになっている。茨城県は平野が多いので、そういうものは作りづらいけれども、阿見町としてそんなものを作ってもいいのかなと思う。 今、注目している情報として、岐阜県の関市。そこの市役所の職員をモデルにして、町の PR の動画を作ろうとして、そしたら、いつの間にか怪獣映画なっちゃったというような映画が今度やる。そんなイメージを持って、フィルムコンテストをやっていただけると面白い。賞金を出すとかになってくるので、お金が必要となるが、発信と書けばそこに謳い込める。SNS の中に、動画とか YouTube とか、はっきり書いてよいのではないか。SNS もインスタとか X とか変えて、もう少し具体化してもよい。

事務局	では、時間となりました。皆さんからご意見いただきまして、今日進めさせていただきましたが、進めていった内容を盛り込んでいただきつつ、足りない部分もあるかと思うので、その辺は事務局と改めて意見を調整させていただく。 4. その他 ～今後のスケジュールについて、資料に基づき説明～ 5. 閉会 それでは、以上をもちまして本日の第 3 回の有識者会議を閉会とさせていただきます。 本日はご出席いただきまして、ありがとうございました。 以上
------------	---

阿見町